

事務事業 No./名称	■サービス部門 こども-30 障害者施設管理運営事業						
主管課	発達支援室	関連課	保育課・こども相談課				
分野名	健康福祉						
目標 (目標値)	障害児活動支援センターを安全に運営していく						
人口等のデータ	データ区分	22年度	21年度	20年度	備考 ・各年4月1日 (住民基本台帳)		
	人口	177,161人	176,669人	176,484人			
	世帯数	78,812世帯	78,131世帯	77,430世帯			
	事業の対象者数	2,055人	1,816人	1,618人			
運営資源状況	決算値(千円)	1,311千円	1,245千円	1,259千円			
	(国・県)						
	(負担金等)						
	(一般財源)	1,311千円	1,245千円	1,259千円			
	人員配置数	0.1人	0.1人	0.1人			
	人件費(千円)	861千円	899千円	939千円			
	協働のパートナー	(社福)ほしづきの里	(社福)ほしづきの里	(社福)ほしづきの里			
事務事業運営経費	総事業費(千円)	2,172千円	2,144千円	2,198千円	・事業の対象者数は、年間延べ利用者数		
	市民1人当りの経費(円)	12円	12円	12円			
	対象者1人当りの経費(円)	1,057円	1,181円	1,358円			
ベンチマーク (県内外自治体や民間団体との比較値)	団体名						
指標	評価	年度	21年度	22年度	23年度	24年度	最終年度(年度)
障害児活動支援センター延べ利用者数	◎	目標値					
◎目標を達成 ○目標に向かって前進 △横ばい ×後退		実績値	1,816	2,055			

中事業に含まれる小事業の評価(⇒個別事業の概要は裏面)

評価の視点	①効率性	事業費や人件費に削減余地はないか。	②妥当性	事業の目的と政策・施策体系の目標とが整合しているか。法的な根拠や公的関与の妥当性はあるか。
	③有効性	事業の成果が得られているか。事業を休止・廃止した場合影響があるか。	④公平性	受益機会が偏っていないか。受益者負担は公平・公正か。
小事業名	H22決算値	評価	適切=○、要改善=△(評価の視点を参照)	⇒ 方向性 A:充実・拡大 B:現状継続 C:改善・見直し D:統合縮小 E:廃止・休止
障害者施設管理運営事業	1,311千円	①効率性 ○ ②妥当性 ○ ③有効性 ○ ④公平性 ○		⇒ □A B■ □C □D □E
	事業の概要	障害児放課後・余暇支援施設の維持管理		
		①効率性 ②妥当性 ③有効性 ④公平性		⇒ □A □B □C □D □E
	事業の概要			
		①効率性 ②妥当性 ③有効性 ④公平性		⇒ □A □B □C □D □E
	事業の概要			
		①効率性 ②妥当性 ③有効性 ④公平性		⇒ □A □B □C □D □E
	事業の概要			

中事業の評価結果

事業診断(課長評価)				
H22年度の課題	深沢こどもセンター全体の総合訓練を、関係各課と調整し、計画的に実施する。			
課題解決のための取組	関係課と調整し、こどもセンター全体の総合訓練を、火災訓練1回、地震訓練1回の合計2回実施した。			
未解決の課題	(1) 災害時の対応についてのマニュアルの整備 (2) 施設管理にかかる光熱水費の削減			
今後の方針	(1) 災害時の対応についてのマニュアル作成を行う (2) 光熱水費の削減に努めてもらうが、障害児の施設であり、利用者の健康管理上冷暖房の使用は必要である。利用者の安全性などを充分配慮した上での、経費削減とする。			
今後の方向性	A:充実・拡大 B:現状継続 C:改善・見直し D:統合縮小 E:廃止・休止	⇒ B	※ □事業完了	課長名 発達支援室長 安田 明

